

四姑娘山麓にラン科の花を求めて

関根茂子&吉井加寿子

2007年に世界自然遺産の指定を受けた、中国四川省ジャイアント・パンダ保護区一帯で、現地の保護活動をしている大川健三氏(四姑娘山自然保護区管理局・特別顧問)の案内で…、2005年夏には花海子キャンプの花歩き、翌06年夏は大姑娘山登山、1年おいて1昨年08年9月には長坪溝で、標高4200mの湖に映る四姑娘山を見るなど、スケールの大きい自然景観と一面のお花畑にすっかり魅せられてしまった。

昨年6月は日本の山で近年目にすることがなくなったアツモリソウなどラン科の花に会いに行く計画だったが、4月下旬に始まった豚(新型)インフルエンザ騒ぎで頓挫。今年(2010年)6月12日から20日に亘って12名で実施した。下記は同行の吉井加寿子さんからの寄稿である。

(関根茂子)

「天空の花園」クラクラ日記

吉井 加寿子

私は高山病に罹りやすい体質で富士山八合目止まりである。四姑娘山にでかける2週間前、「おまじない」に富士山の雪がない所まで登った。後は「Let it be」だ。

いよいよ車4台に分乗して関根リーダー率いる「蘭ツアー」へ出発。なんと！先頭は救急車。車内には酸素缶が常備されているとのこと。

<宿泊地2000メートル>

車は牛を避け、落石を避けて奥山へひた走り、ピンクの色が目立ってきた。サクラソウだ。よくよく見るとオレンジのサクラ草がある。勿論、オレンジのサクラソウは初めてだ。

この日のハイライトは黄色いアツモリソウで、林の中、急斜面を降りて行くと、「あっ！」咲いている。同じ黄色でも礼文アツモリソウとは異なる種類だ。背が高く林に灯をともしたように咲いていた。



四姑娘山山麓の湿原

スケッチ：関根茂子

帰りは急斜面を登らなければならない。苦しくなり途中で一休み。が、3000メートル位では休むことでコントロールできるようになった。

<宿泊地3100メートル>

空気が薄い。寝ていても心拍数が上がっているのがわかる。いよいよ高山病が始まった。腸がやられ、薬で抑えて出発。川沿いの道をさかのぼると黄色いサクラ草、黄色いポピー、赤いポピー、ヤマシャクヤク、シラネアオイもどきやピンクのサクラ草などなど、あたり一面の黄色い野草の中で咲き誇っている。

この日は、この3500メートル地点で明日に備えてブラブラすることに決めた。黄色いポピーに触れたり、鼻を近づけたり、森に目をやれば小鳥が飛来し、豊かな自然と一体になった。



黄色のアツモリソウ(ラン科)

撮影：佐々木洋子



アツモリソウ(ラン科)

撮影：佐々木洋子

<宿泊地2500メートル>

車で4000メートルの峠越えをする。これは不思議！
なんともないではないか。お寺の階段もへいっちゃら。
順応したらしい。

天まで続く段々畑、その道端に咲く野の花、きっと牛
が嫌うのだろう。

この地の人々にとっては雑草、その中にトルコキキョウ
を見つけて喜ぶ私たちがいる。町の店先には手折って来
たであろうアツモリソウが活けてあった。

<4100メートル超のフラワーウォッチング>

見渡す限り山肌を覆う石楠花、紫色のつつじの群落は
日本とはスケールが違う。気高く凛として立ち、神々し
い威圧感を感じさせる黄色いポピーの花々は峠の霧の中
で見た忘れられない光景だ。そして、リュウキンカの丘
にひっそりと咲く、赤いアツモリソウ、ここは「秘密の
花園」だ。四姑娘山よ、永遠に・・・



インカルヴィレア・アルグダ(ノウゼンカズラ科)
撮影：佐々木洋子



バイモ(ユリ科) 撮影：吉井 勉



ロサ・マクロフィラ(バラ科) 撮影：大橋幸子



ポドフィルム・ヘクサンドルム(メギ科)
撮影：長百合子



サクラソウ(サクラソウ科)三題
撮影：吉井 勉



シャクナゲ(ツツジ科) 撮影：吉井 勉